令和５年度　学校報告書

令和６年３月６日
横浜市立中川西小学校
校長　村越　直之

令和５年度も残すところ、数日となりました。本年度も、児童・保護者からアンケートをとり、その結果を学校運営協議会で共有し、次のように評価結果を報告させていただきます。これからも、子どもにとって安全・安心で、楽しく明るく、充実した学びの場としての「学校」の役割を果たせるよう、本結果を学校経営や教育活動に生かしていきたく存じます。

●学校教育目標「　ともに学び　ともに高め合い　ともにかがやく　」のもと、10 の重点取組を行いました。

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果
生きてはたらく知	①SDGｓの視点を軸に、日常的な学習を通じて身に付けたことを活かして、教科横断的な「主体的・対話的で深い学び」を通じて課題解決する力を身に付ける。②相手意識や目的意識をもった言語活動の充実を図ることで、自分の思いや考えをもち、すすんで表現し、互いの立場や考えを理解できるような力を身に付ける。	①各教科学習や児童委員会のごみゼロ運動や「届けよう、服の力」プロジェクトなどを通して、SDGｓの視点を意識した活動を繰り返し行うことができた。②国語を重点教科とし、「自分の考えをもち　進んで表現しようとする子の育成」を研究主題とし研究授業を行った。相手意識をもった言語活動の充実を図ることで、進んで表現し、互いの立場を理解できるような力を育むことができた。
豊かな心	①クラス単位だけでなく、学年活動、たてわり活動、クラブ活動、学校行事など、多様な集団の中で学習・活動する機会をさらに増やすことで、自分を大切にし、他者も尊重する態度を身に付ける。②SDGｓの視点を軸に、すべての人が心豊かな暮らしを送ることができる社会について考え、実行しようとする態度を育てる。	①学年活動やたてわりペア活動、クラブ活動や学校行事などクラス単位を超えた活動を活発に行うことができ、自分を大切にし、他者も尊重する態度を身につける機会が増えた。②「ごみゼロ運動」や「中西ごみゼロステーション」の設置などを通して、すべての人が心豊かな暮らしを送ることができる社会について考え、実行しようとする態度が育ってきている。
健やかな体	①食育指導などを通じて健康に生活する習慣を身に付ける。②体育や休み時間など、運動の時間を確保するとともに、家庭・地域と連携し、児童が運動に親しむ習慣を身に付ける。③子どもたちの心の健康状態にも留意し、きめ細やかなケアを行う。	①調理実習や昼の放送での児童や栄養士による食育、HP での給食紹介等、継続的に食育指導を行った。②運動委員会を中心とした「縄跳び週間」を設けることで、児童の体力向上や運動への関心を高める取り組みを行った。③児童へのアンケートを定期的に行い、児童の状況を共有したり面談をする機会を設けたりした。また、組織的に対応する体制を整え、カウンセラーや個別対応に繋げた。
公共心と社会参画	①地域等主催のイベント周知を促し、まちの一員としての自覚を育む。②係や委員会など、発達段階に応じて学んだことを生活や将来に結び付けたり、働くこと、豊かに生きることにつなげて考えたりできるようにする。③特別活動や総合的な学習の時間と教科を関連付け、出前授業や職場見学など、体験的な活動を組み込む。	①学年に応じて、山崎公園や中川駅周辺、地区センターなどの地域と積極的に関わりながら学習を進めることで、まちの一員としての自覚を促した。②委員会やクラブ活動で他学年と協力して活動することや、たてわりペア活動・N-１グランプリ（特技発表）などを通して、児童が自己有用感をもち、よりよい学校への思いを育んだ。③多数の学校ボランティア、アシスタントティーチャーの方々の力を借りて学校運営を行った。
未来を開く志	①係活動や委員会活動など、発達段階に応じて学んだことを生活や将来に結び付けたり、働くこと、豊かに生きることにつなげて考えたりできるようにする。②「横浜市キャリア教育推進プログラム」や「自分づくり教育実践集事例集」などを通じて、夢や希望、目標をもてる子どもを育てる。	①係活動では、子どもの「活動したい」という意欲を大切にした活動を行った。委員会では集会を行い、学年の出前授業では、企業と連携するなどし、働くことの楽しさが自覚できるよう促した。②前期・後期に全学年がキャリアパスポートの「めあて」と「振り返り」を記入することで、明確な夢や希望、目標をもてるようにした。
いじめへの対応	①児童が安心して豊かに生活できる学校づくりを通じて、人権感覚を丁寧に育み、困っている人を助けられる子どもに育てる。②校内組織の児童指導プロジェクトがいじめ防止対策委員会を兼ね、毎週の職員打ち合わせにおいて情報を共有し、いじめに対してのアンテナを高くもち学校組織としてきめ細やかに対応する。	①人権週間では今年度も、「中西しあわせプロジェクト」を実施し、一人ひとりの思いを五七五で表現し、交流することで人権感覚を丁寧に育む活動を行った。②いじめ防止対策委員会を定期的に実施し、学校組織としての対応が行える体制を整えた。また、いじめ対応研修を４回実施し、職員全員がいじめへの感度を高くし、対応できるようにした。
人材育成組織運営（働き方）	①初任研コーディネーターを中心に立案し、初任者や経験年数の浅い教員の研修を計画的に行う。②経験年数の浅い教員を中心としたメンターチームを活用し、授業力の向上や支え合える人間関係の構築を図る。③７プロジェクトを中心に職員一人ひとりが学校づくりに参画し、風通しのよい職場とする。	①夏季休暇中に、理科や音楽といった実験や実技が伴う教科の専門知識をもつ教員が校内研修を行ったり、メンターチームのニーズに合った研修や校内授業公開を行ったりして、職員研修を充実させてきた。②重点研究でプロジェクトと連携することで授業力向上や質問しやすい人間関係の構築に取り組んだ。③各部署のコミュニケーションを密にとり、学校行事等で全職員で学校運営を行ってきた。
特別支援教育	①児童一人ひとりの個性に応じた適切な支援を組織的に行っていく。②個別支援級（５．６くみ）や特別支援教室（にっこりルーム）の環境を整え、支援が必要な児童が適切な支援を受けられるようにする。③教室のユニバーサルデザイン化を定着させ、誰でも落ち着いて安心して学習できる環境を整える。	①②特別支援委員会やケース会議を行い、一人ひとりに応じた適切な支援を組織的に行ってきた。特別支援教室では、どこでもスタディも導入し、別室で授業を受けられるように整備した。③教室の「中川西小ユニバーサルデザイン」をもとに教員一人ひとりが、意識をして環境づくりに努めた。
地域学校協働活動	①学校運営協議会委員は年 5 回程度の会合及び学校行事に参加し、学校・保護者・地域が協働して課題解決する仕組みづくりに取り組む。②地域コーディネーターを中心とした地域学校協働本部と学校運営協議会が一体となってボランティアや登下校見守り等の地域学校協働活動を進める。	①学校運営協議会を設置し、学校の課題共有や教職員とのグループワークを通じて、学校・保護者・地域が協働して学校を運営していく仕組みを作ることができた。今年度は通学路の見直しをともに行った。②地域交流室や地域掲示板を整備し、ボランティア活動の環境整備を進めた。
児童指導	①児童一人ひとりが安心して学習や生活ができる学校を目指して、定期的に「中川西小スタンダード」を見直していく。②学校で起こっている問題について、定期的に全職員で共通理解する場を設定し、共通理解のもと組織で対応できるようにする。	①児童が安心して生活できる学校を目指し、プロジェクトを中心に定期的に「中川西小スタンダード」の見直しを行った。また、会議等で職員と情報共有を図り、児童へ一貫した指導ができるよう努めた。②学校生活での児童指導については、週１回定期的に全職員で共有する場を設定し、共通理解のもと組織で対応する体制を整え、実践した。